

○計画期間:令和4年4月～令和9年3月(5年0月)

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和5年度終了時点(令和6年3月31日時点)の中心市街地の概況

富山市中心市街地活性化基本計画では、目指す中心市街地の都市像を「魅力的な都市空間を舞台に、未来を担う人材が生まれ、笑顔あふれる活力あるまち」と設定している。

その都市像の実現を目指して、「公共交通・都市空間」、「商業・賑わい」、「暮らし」の観点に基づき、「公共交通ネットワークの活用と良質な都市空間の形成による回遊性の高い中心市街地の形成」、「まちなかの既存ストックを活用した創業・起業・チャレンジが生まれる中心市街地の形成」、「すべての世代がそれぞれのライフステージに応じて、幸せに暮らせる中心市街地の形成」の3つの方針のもと、それぞれに目標を定め、各種事業に取り組んでいる。

「公共交通・都市空間」の観点では、令和2年3月に富山駅路面電車南北接続事業が完成したことにより、富山駅で南北に分断されていた路面電車が接続し、乗り換えをすることなく市街地南北の移動が可能になったことや、令和5年7月に富山駅の北側にオーバード・ホール/中ホールが開館するなど魅力的な都市空間が創出された。

「商業・賑わい」の観点では、富山市新規出店サポート事業による出店の促進や、全日本チンドンコンクール、トランジットモールといったイベントが開催されるなど中心市街地の賑わいを創出した。

「暮らし」の観点では、平成19年度から中心市街地の居住人口の社会増加が続いている。生活利便施設や交通網の整備などにより質の高い居住環境が整ってきていることやまちなか居住推進事業による支援などによりまちなかの居住ニーズが高まり、今後も再開発事業や民間資本による分譲マンションの建設が続くなど好循環が生まれている。

令和5年度は、熱中症警戒アラートが10日間以上連続で発令されたことや、令和6年能登半島地震など、天候や災害の影響により外出機会が失われることもあったが、目標指標では、「市内電車一日平均乗車人数」のみ基準値を下回り、その他の指標は基準値を上回る結果となった。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(1) 居住人口

(基準日：毎年度6月末日)

(中心市街地 区域)	令和3年度 (計画前年度)	令和4年度 (1年目)	令和5年度 (2年目)	令和6年度 (3年目)	令和7年度 (4年目)	令和8年度 (5年目)
人口	21,711	21,641	21,619			
人口増減数	▲175	▲70	▲22			
自然増減数	▲235	▲194	▲223			
社会増減数	60	124	201			
転入者数	1,272	1,427	1,379			

(2) 地価

(単位：円/㎡)

	令和3年度 (計画前年度)	令和4年度 (1年目)	令和5年度 (2年目)	令和6年度 (3年目)	令和7年度 (4年目)	令和8年度 (最終年度)
中心市街地 平均	161,938	162,133	164,157			

2. 令和5年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

富山市では、中心市街地の都市像を「魅力的な都市空間を舞台に、未来を担う人材が生まれ、笑顔あふれる活力あるまち」と設定し、その実現のため「公共交通・都市空間」「商業・賑わい」「暮らし」の3つの観点により計画に位置付けた各種事業を推進され、中心市街地の活性化に取り組んでいる。

計画の4つの目標指標のうち、「市内電車一日平均乗車人数」以外の目標指標は順調に推移しており、特に、「中心商業地区及び富山駅周辺地区の歩行者通行量(日曜日)」及び「中心市街地の居住人口の社会増」については目標値を上回っている。このことは、富山市新規出店サポート事業やまちなか居住推進事業など、計画に位置付けた事業を着実に実施してきた効果が現れており、中心市街地の活性化が図られているものと考えられる。また、「市内電車一日平均乗車人数」は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた令和2年度から回復傾向にあり、今後、目標値を上回ることが想定される。

当協議会としては、計画に位置づけられた各種事業を官民が連携して着実に実施していくことが重要であると考えており、目標指標の達成状況を注視しながら助言や提案等を行い、計画に掲げられた目標を達成できるよう中心市街地の更なる活性化に向けて共に取り組んでいきたい。

本年1月に発生した能登半島地震では、中心市街地においてもグランドプラザのガラスが破損したことで立ち入りが制限されたことや道路の液状化被害など、深刻な影響があり、現在でも復旧工事が行われている所もある。令和6年能登半島地震からの一日も早い復旧に取り組むと共に、「魅力的な都市空間を舞台に、未来を担う人材が生まれ、笑顔あふれる活力あるまち」の実現に向けて基本計画を推進し、中心市街地だけにとどまらず、市全体が活性化することを期待する。

II. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況	前回の見通し	今回の見通し
① 来街者が回遊する魅力的な都市空間の創出	①市内電車一日平均乗車人数	20,429 人/日 (R 元)	21,500 人/日 (R8)	19,847 人/日	C	①	①
② 商業・賑わいの再生による活力ある歩きたくなるまち	②中心商業地区及び富山駅周辺地区の歩行者通行量(日曜日)	51,577 人 (R 元)	53,000 人 (R8)	68,424 人	A	①	①
③ 多世代が集い、良質な暮らしを享受できるまち	③-1 中心市街地の居住人口の社会増	1,582 人 (113 人増/年) (H17~ R 元)	565 人 (113 人増/年) (R3~ R8)	325 人増 (162 人増/年) (R3~ R5)	A	①	①
	③-2 中心市街地の健康な高齢者の割合 【前期高齢者:65~74歳】 【後期高齢者:75歳以上】 (65歳以上の高齢者で、介護保険の要支援・要介護認定を受けていない人の割合)	前期高齢者: 95.9% 後期高齢者: 63.7% (R 元)	前期高齢者: 96.3%以上 後期高齢者: 63.7%以上 (R8)	前期高齢者: 96.1% 後期高齢者: 64.6%	B	①	①

<基準値からの改善状況>

A：目標達成、B：基準値より改善、C：基準値に及ばない

<目標達成に関する見通しの分類>

①目標達成が見込まれる ②目標達成が見込まれない

※関連する事業等の進捗状況が順調でない場合はそれぞれ1、2とする。

2. 目標達成見通しの理由

令和5年度の市内電車一日平均乗車人数は19,847人/日となり、基準年度である令和元年度の20,429人/日を582人/日（約2.8%）下回っており、目標値の21,500人/日に達していない状況である。

これは、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類に移行し、外出機会の増加に伴い市内電車を利用する機会が増えつつあるものの、新型コロナウイルスの感染拡大時に、車や自転車など他人との接触の少ない移動手段を選択した方が、引き続き市内電車以外の移動手段を選択している可能性があることなどが基準年度を下回っている要因であると考えられる。

今後については、新型コロナウイルスの影響縮小に伴い、移動手段を市内電車利用に戻す人が増加することや、ブルーバール等再整備事業における親水広場の整備、富山駅周辺における民間開発、富山駅周辺の官民連携組織である一般社団法人トヤマチミライによる賑わい創出など、市民の中心市街地への外出機会の増加が期待され、市内電車の利用者数は回復するものと見込んでいる。

令和5年度の「中心商業地区及び富山駅周辺地区の歩行者通行量」は、68,424人となり、基準年度である令和元年度と比べると16,847人（32.6%）増加している。

令和4年度に引き続き富山駅周辺地区の歩行者通行量が伸びており、これは、オーバード・ホール／中ホール及びブルーバールの一部エリアが完成し、完成された場所でイベントが開催されたことや、富山駅周辺における官民連携のまちづくり団体であるトヤマチ∞ミライ ユナイテッドのイベント等の活動により、外出機会が増えたことが要因であると考えられる。一方で、中心商業地区の歩行者通行量はコロナ禍の令和2年度以降ほぼ横ばいとなっており、これは、新型コロナウイルス感染拡大前と比較し、イベント開催数が回復していないことが要因であると考えられる。

今後については、新型コロナウイルスの影響が小さくなってきていることによりイベントの開催が増えていくことや、再開発事業による賑わい拠点の整備、トランジットモールなどのイベント実施、富山市新規出店サポート事業により出店を増やすことなど、来街する機会が増やすことで、歩行者通行量が増加するものと考えられる。

「中心市街地の居住人口の社会増」は、令和4年度から令和5年度にかけて201人の社会増加となっており、基準値や目標値である113人増/年を上回っている。

これは、「まちなか居住推進事業」により、まちなかにおける住宅の取得や家賃の助成などに対する支援の効果が現れたものと考えられる。

また、中心市街地における居住人口の社会増加が継続している理由としては、市内電車環状線や循環型コミュニティバス「まいどはやバス」、自転車市民共同利用システムなどによるまちなかにおける交通利便性の向上や、新鮮な地場産品を取り扱う「地場もん屋」をはじめとした生活利便施設の立地など、質の高い居住環境が整ってきたことでまちなかでの居住ニーズが高まっていることも要因と考えられる。

今後も、再開発事業等による分譲マンションの建設が予定されており、まちなかでの良質な居住空間の供給が続くことから、中心市街地における居住人口の社会増加が継続するものと見込んでいる。

令和5年度における「中心市街地の健康な高齢者の割合」は、前期高齢者においては

96.1%と、基準年度である令和元年度の基準値と比べ0.2ポイント上回り、目標値と比べ0.2ポイント下回った。また、後期高齢者においては、64.6%となり、基準年度である令和元年度の基準値及び目標値と比べ0.9ポイント上回った。

これは、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが季節性インフルエンザと同様の5類に移行したことで外出機会が増えたことや、まちなか総合ケアセンターによる高齢者の健康づくりを支える事業などの取り組みを行ってきたことが要因と考えられる。

今後については、引き続き「角川介護予防センター」における温泉水の効用を活用した水中運動やパワーリハビリテーションなど複合的な介護予防プログラムの提供や「まちなか総合ケアセンター」における在宅医療の推進をはじめとした地域包括ケア拠点施設としての総合的な支援など高齢者の健康づくりを支える事業に加え、まちなかへの外出機会を創出し健康寿命を延伸する「おでかけ定期券事業」や歩くきっかけづくりを行う「とほ活」アプリの提供を実施していくことなど、計画に位置づけしている事業に取り組むことで、中心市街地の健康な高齢者の割合が増加していくものと考えている。

3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

前回から変更はない。

4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1) 「市内電車一日平均乗車人数」 ※目標設定の考え方認定基本計画 P. 79～P. 85 参照

●調査結果と分析



年	(単位)
R元	20,429 人/日 (基準年値)
R4	19,298 人/日
R5	19,847 人/日
R6	
R7	
R8	21,500 人/日 (目標値)

※調査方法：実測値による平均人数

※調査月：通年

※調査主体：(R元年度まで) 富山地方鉄道株式会社及び富山ライトレール株式会社
(R2年度以降) 富山地方鉄道株式会社

※調査対象：市内電車

〈分析内容〉

令和5年度の市内電車一日平均乗車人数は19,847人/日となり、基準年度である令和元年度の20,429人/日を582人/日(約2.8%)下回っている。これは、新型コロナウイルスの感染拡大時に、車や自転車など他人との接触の少ない移動手段を選択した方が、引き続き市内電車以外の移動手段を選択している可能性があることが要因であると考えられる。

しかしながら、新型コロナウイルスの影響を受けた令和2年度以降、回復基調にある。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. グールバール等再整備事業(富山市)

事業実施期間	令和元年度～令和7年度【実施中】
事業概要	路面電車の南北接続を契機として、富山駅北の賑わいを創出するためグールバールの再整備やイベント等の社会実験を実施する事業である。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業(富山市中心市街地地区(第4期)))(国土交通省)(令和4年度～令和7年度) 都市構造再編集中支援事業(富山市中心市街地地区(第4期))(国土交通省)(令和4年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】170人/日 増 調査地点である「オーバード・ホール前」の歩行者通行量の最新

	<p>値（令和5年度）は平日 2,380 人/日、休日 3,143 人/日であり、基準年度である令和元年度の実績と比べ平日 3,444 人/日減少し、休日 403 人/日増加した。このことから、市内電車の利用者は 223 人/日減少していると思込まれる。</p> <p>これは、令和4年度に比べると通行量が回復しているが、新型コロナウイルスの影響により、在宅勤務へ切り替えた方が戻らず平日の歩行者通行量が基準値に届かないものと思われる。</p>
事業の今後について	<p>令和5年度では、ブルーパールの一部エリアについて再整備が完了し、イベント等の社会実験を9件行った。引き続き、親水広場の再整備を進め、利活用の方策検討のための社会実験に取り組むことで、エリアの魅力向上につながり、事業完了後には、市内電車一日平均乗車人数が 170 人/日増加すると見込まれる。</p>

②. 中規模ホール整備官民連携事業（富山市）

事業実施期間	平成 29 年度～ 【実施中】
事業概要	PFI 手法を用いて、富山市芸術文化ホール（オーバード・ホール）北側に中規模ホールを整備し、維持管理を行う事業である。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>【事業目標値】15 人/日 増</p> <p>令和5年7月1日開館し、令和5年度の年間来場者数は 15,268 人であった。このことから、市内電車の利用者は 38 人/日増加していると思込まれる。</p>
事業の今後について	引き続き、オーバード・ホール／中ホールを運営し、催事が開催されることで、まちなかへの来街者が増え、事業目標値の達成も可能と考えられる。

③. 交通空間賑わい実証事業（富山市/大手モール周辺賑わい創出実行委員会）

事業実施期間	平成 28 年度～令和 8 年度【実施中】
事業概要	富山城址公園が隣接し、沿道にコンベンション施設や複合型商業施設等が並び、路面電車が走行する大手モールをイベントに合わせてトランジットモール化する事業。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 4 年度～令和 8 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>【事業目標値】22 人/日 増</p> <p>調査地点である「市民プラザ前」の歩行者通行量の最新値（令和5年度）は平日 1,627 人/日、休日 2,287 人/日と基準年度である令和元年度と比べ平日 216 人/日、休日 354 人/日減少した。このことから、市内電車の利用者は 26 人/日減少していると思込まれる。</p>

	交通空間賑わい実証事業のイベントにおいて、歩行者通行量が通常時の4倍以上になるなど大手モール周辺の賑わいが図られているが、新型コロナウイルス感染拡大前と比較し中心商業地区でのイベント開催数が回復していないこともあり、事業目標値を満たせなかったと考えられる。
事業の今後について	引き続き、事業を継続し、大手モール周辺の賑わい及び集客の創出が図られることで、市内電車を利用した来街者も増え、事業目標値の達成も可能と考えられる。

④. 富山市新規出店サポート事業（富山市）

事業実施期間	平成21年度～令和8年度【実施中】
事業概要	中心商店街等の空き店舗への出店者に対し、店舗改装費や賃借料等を支援し、市民、来街者のニーズが高く、商店街に不足している業種の出店を促進する事業である。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和4年度～令和8年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】41人/日 増 令和5年度は5件の新規出店に対して支援したことにより、市内電車利用者数は21人/日増加したものと見込まれる。
事業の今後について	支援制度を周知し出店を促進することにより、空き店舗の更なる活用を図る。

⑤. 中央通りD北地区第一種市街地再開発事業（中央通りD北地区市街地再開発組合）

事業実施期間	平成30年度～令和7年度【実施中】
事業概要	スポーツ交流施設、商業施設、業務施設、住宅施設等の複合施設を整備する市街地再開発事業。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（富山市中心市街地地区（第4期））（国土交通省）（令和4年度～令和7年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】83人/日 増 【最新値】— 令和5年度に地区内の解体工事着工
事業の今後について	令和3年3月に本組合へ移行し、令和5年2月に権利変換計画の認可を受け、施設建築物工事の着工に向け事業が進捗している。事業完了後は、整備される商業施設やアイススケート場の利用者が増加することにより、市内電車の利用者数が83人/日増加すると見込まれる。

⑥. おでかけ定期券事業（富山市）

事業実施期間	平成16年度～令和8年度【実施中】
--------	-------------------

事業概要	市内在住の65歳以上の高齢者を対象に、バス・鉄道・路面電車を利用して中心市街地へ出かける際に、1乗車100円で利用できるICカードを発行する事業。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業(総務省)(令和4年度～令和8年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】117人/日 増 令和5年度のおでかけ定期券一日平均利用者数は、2,043人と基準年度である令和元年実績2,758人から715人減少した。このうち、おでかけ定期券での路面電車利用割合は37%であることから、市内電車一日平均乗車人数は529人/日減少したと見込まれる。 令和4年度実績と比べると8人/日減少となり、新型コロナウイルスの影響により、外出自粛の傾向が強まったことや市内電車から移動手段を変更された方を呼び戻すことができなかったことが要因と考えられる。
事業の今後について	おでかけ定期券の広報活動や、おでかけ定期券の利用による優待サービスの周知を工夫し、申し込みや利用の促進を図ることで、事業目標値の達成も可能と考えられる。

●目標達成の見通し及び今後の対策

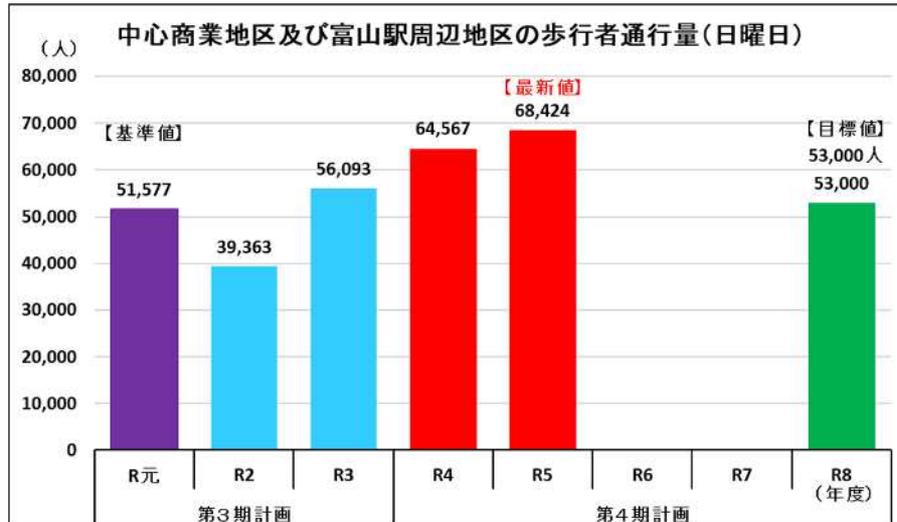
市内電車一日平均乗車人数の増加に向けた各事業については、概ね順調に進捗している。

一部の事業については令和4年度に比べ数値が下がっていることから、周知方法を工夫するなど改善しつつ、引き続き、ブルバール等再整備事業での親水広場の整備や社会実験などのイベントを開催していくことやおでかけ定期券事業など来街機会を増やす取り組みを行っていくことで、市民の中心市街地への外出機会の増加が期待され、市内電車一日平均乗車人数が増加し、目標を達成可能と見込んでいる。

(2) 「中心商業地区及び富山駅周辺地区の歩行者通行量（日曜日）」

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 86～P. 91 参照

●調査結果と分析



年	(単位)
R元	51,577 人/日 (基準年値)
R4	64,567 人/日
R5	68,424 人/日
R6	
R7	
R8	53,000 人/日 (目標値)

※調査方法：富山市歩行者通行量調査

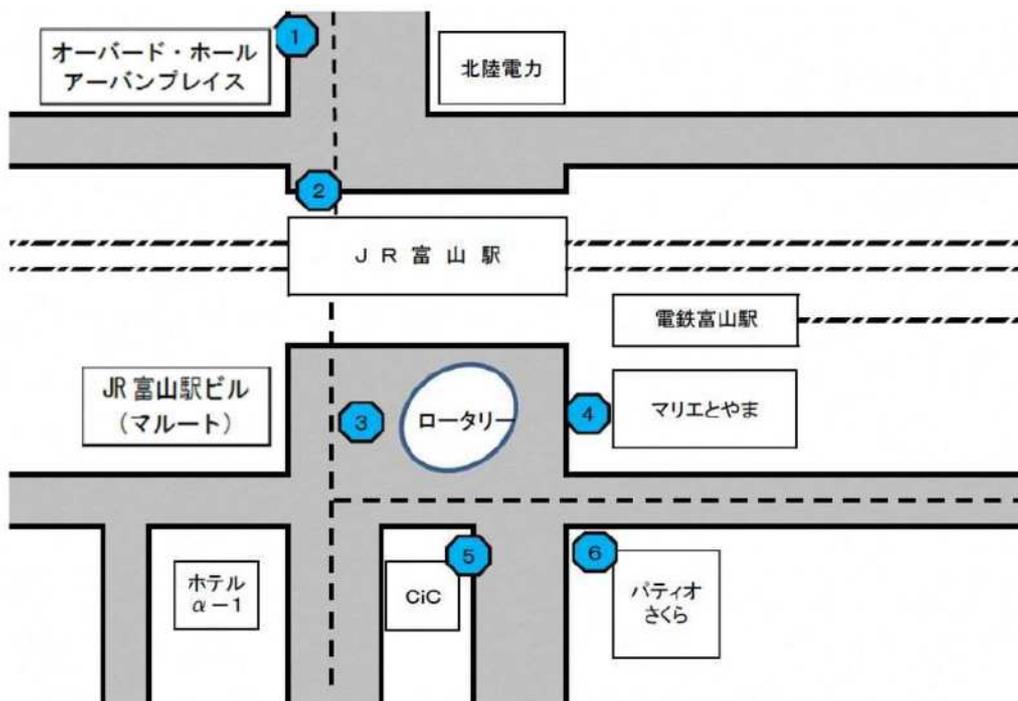
(富山駅周辺地区 6箇所、中心商業地区 5箇所、11時間連続調査)

※調査月：令和5年5月、8月、11月、令和6年3月の日曜日(各月1日間)

※調査主体：富山市、富山商工会議所

※調査対象：歩行者、自転車

調査地点<富山駅周辺地区(6箇所)>



調査箇所	①オーバード・ホール前	②JR富山駅北口	③富山駅南口ロータリー西側
	④マリエとやま西側	⑤CiCビル東側	⑥パティオさくら前

調査地点＜中心商業地区（5箇所）＞



調査箇所 ⑦市民プラザ前（東西歩道前） ⑧ユウタウン総曲輪駐車場入口前
 ⑨インフェイズ前 ⑩旧富山西武南側 ⑪北陸銀行本店北側

(単位：人)

	令和3年度 (計画前年度)	令和4年度 (1年目)	令和5年度 (2年目)	令和6年度 (3年目)	令和7年度 (4年目)	令和8年度 (5年目)
オーバード・ホール前	3,342	2,442	3,143			
JR富山駅北口	6,855	6,686	7,611			
富山駅南口ロータリー西側	6,418	19,977	21,361			
マリエとやま西側	10,549	9,497	10,504			
CiCビル東側	3,675	4,151	4,454			
パティオさくら前	3,019	2,823	2,831			
市民プラザ前	3,905	2,311	2,287			
ユウタウン総曲輪駐車場入口前	6,487	5,849	5,617			
インフェイズ前	3,889	3,804	3,770			

旧富山西武南側	5,331	4,707	4,560			
北陸銀行本店北側	2,623	2,322	2,288			

※年4回調査の平均値を記載。

〈分析内容〉

中心商業地区及び富山駅周辺地区の歩行者通行量は、目標値である53,000人を達成することができた。

富山駅周辺地区では全ての調査時点で上昇しており、これは、オーバード・ホール／中ホール及びブルーパールの一部エリアが完成し、完成された場所でイベントが開催されたことや、富山駅周辺における官民連携のまちづくり団体であるトヤマチ∞ミライユナイテッドのイベント等の活動により、外出機会が増えたことが要因であると考えられる。

しかしながら、中心商業地区では全ての調査地点で減少しており、基準値である令和元年度と比べ2,315人下回っている。これは、新型コロナウイルス感染拡大前と比較し、イベント開催数が回復していないことが要因であると考えられる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. ブルーパール等再整備事業【再掲】(富山市)

事業実施期間	令和元年度～令和7年度【実施中】
事業概要	路面電車の南北接続を契機として、富山駅北の賑わいを創出するためブルーパールの再整備やイベント等の社会実験を実施する事業である。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業(富山市中心市街地地区(第4期))) (国土交通省)(令和4年度～令和7年度) 都市構造再編集中支援事業(富山市中心市街地地区(第4期)) (国土交通省)(令和4年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】2,530人/日 増 調査地点である「オーバード・ホール前」の最新値は3,143人と基準年度である令和元年度の実績値である2,740人から403人増加した。 これは、ブルーパールの再整備事業により一部エリアの再整備が完了したことや、社会実験も含めたイベントを開催するなどエリアの魅力向上につながり、歩行者通行量が増加したものである。
事業の今後について	引き続き、親水広場の再整備を進め、社会実験も含めたイベントにも取り組みブルーパールの賑わいを創出していくことで、事業完了後には、歩行者通行量が2,530人/日増加すると見込まれる。

②. 中規模ホール整備官民連携事業【再掲】(富山市)

事業実施期間	平成 29 年度～ 【実施中】
事業概要	P F I 手法を用いて、富山市芸術文化ホール(オーバード・ホール)北側に中規模ホールを整備し、維持管理を行う事業である。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】770人/日 増 令和5年7月1日開館し、令和5年度の年間来場者数(日曜日)は4,812人であった。このことから、歩行者通行量は802人/日増加していると思われる。
事業の今後について	引き続き、中ホールを運営することで催事が開催され、まちなかへの来街者が増えることで、事業目標値の達成も可能と考えられる。

③. 交通空間賑わい実証事業【再掲】(富山市/大手モール周辺賑わい創出実行委員会)

事業実施期間	平成 28 年度～令和 8 年度【実施中】
事業概要	富山城址公園が隣接し、沿道にコンベンション施設や複合型商業施設等が並び、路面電車が走行する大手モールをイベントに合わせてトランジットモール化する事業。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業(総務省)(令和4年度～令和8年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】270人/日 増 調査地点である「市民プラザ前」の最新値は2,287人と基準年度である令和元年度の実績2,641人から354人減少した。 交通空間賑わい実証事業のイベントにおいて、歩行者通行量が通常時の4倍以上になるなど大手モール周辺の賑わいが図られているが、新型コロナウイルス感染拡大前と比較し中心商業地区でのイベント開催数が回復していないこともあり、事業目標値を満たせなかったと考えられる。
事業の今後について	引き続き、事業を継続し、大手モール周辺の賑わい及び集客の創出が図られることで来街者も増え、事業目標値の達成も可能と考えられる。

④. 富山市新規出店サポート事業【再掲】(富山市)

事業実施期間	平成 21 年度～令和 8 年度【実施中】
事業概要	中心商店街等の空き店舗への出店者に対し、店舗改装費や賃借料等を支援し、市民、来街者のニーズが高く、商店街に不足している業種の出店を促進する事業である。
国の支援措置名	中心市街地活性化ソフト事業(総務省)(令和4年度～令和8年度)

及び支援期間	
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】982人/日 増 令和5年度は5件の新規出店に対して支援したことにより、404人/日増加したものと考えられる。
事業の今後について	この事業においては、5年間で10件の活用を目標としており、昨年度と合わせると目標の10件の活用を行った。引き続き、支援制度を周知し出店を促進することにより、空き店舗の更なる活用を図ることで、事業目標値の達成も可能と考えられる。

⑤. 中央通りD北地区第一種市街地再開発事業【再掲】（中央通りD北地区市街地再開発組合）

事業実施期間	平成30年度～令和7年度【実施中】
事業概要	スポーツ交流施設、商業施設、業務施設、住宅施設等の複合施設を整備する市街地再開発事業。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（富山市中心市街地地区（第4期））（国土交通省）（令和4年度～令和7年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】2,520人/日 増 【最新値】— 令和5年度に地区内の解体工事着工
事業の今後について	令和3年3月に本組合に移行し、令和5年2月に権利変換計画の認可を受けており、施設建築物工事に向け事業が進捗している。事業完了後は、整備される商業施設やアイススケート場の利用者や共同住宅の整備による居住者が増加することにより、2,520人/日の歩行者通行量の増加が見込まれる。

●目標達成の見通し及び今後の対策

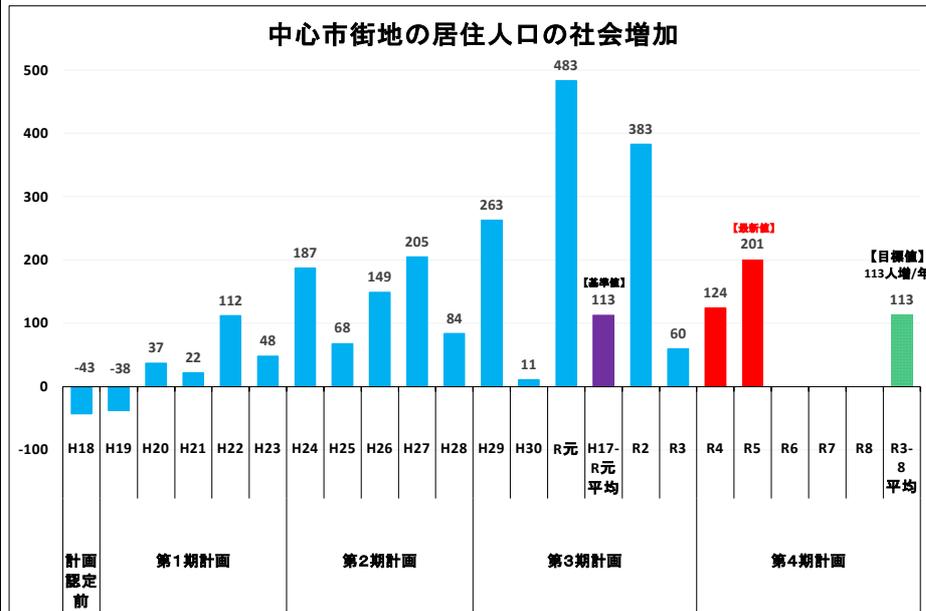
中心商業地区及び富山駅周辺地区の歩行者通行量の増加に向けた各事業については、おおむね順調に進捗している。

今回歩行者通行量が減少した中心商業地区については、新型コロナウイルス影響が小さくなってきていることによりイベントの開催が増えていくことや、新規出店サポート事業による新規店舗の出店促進や中央通りD北地区市街地再開発事業による集客施設の完成など引き続き魅力あるまちづくりに努めることで、目標を達成可能と見込んでいる。

(3) ①「中心市街地の居住人口の社会増」

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 92～P. 93 参照

●調査結果と分析



年	(単位)
H17-R元	113 人増/年 (基準年値)
R4	124 人増/年
R5	201 人増/年
R6	
R7	
R8	
R3-8	113 人増/年 (目標値)

※調査方法：住民基本台帳データに基づく

※調査月：毎年7月～翌年6月

※調査主体：富山市

※調査対象：中心市街地の居住者

〈分析内容〉

中心市街地の居住人口は平成19年度から社会増加が続いており、令和5年度においても、201人の社会増加になるなど、目標値である113人の社会増加を上回っている。

これは、「まちなか居住推進事業」により、まちなかにおける住宅の取得や共同住宅の建設などに対する支援の効果が現れていることもあるが、市内電車環状線や循環型コミュニティバス「まいどはやバス」、自転車市民共同利用システムなどによるまちなかにおける交通利便性の向上や、新鮮な地場産品を取り扱う「地場もん屋」をはじめとした生活利便施設の立地など、質の高い居住環境が整ってきたことでまちなかでの居住ニーズが高まっていることも要因と考えられる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 中央通りD北地区第一種市街地再開発事業【再掲】(中央通りD北地区市街地再開発組合)

事業実施期間	平成30年度～令和7年度【実施中】
事業概要	スポーツ交流施設、商業施設、業務施設、住宅施設等の複合施設を整備する市街地再開発事業。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業(富山市中心市街地地区(第4期))(国土交通省)(令和4年度～令和7年度)

事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】434人/日 増 【最新値】— 令和5年度に地区内の解体工事着工
事業の今後について	令和3年3月に本組合へ移行し、令和5年2月に権利変換計画の認可を受け、施設建築物工事に向け事業が進捗している。事業完了後は、約220戸の共同住宅が整備されることにより、中心市街地の居住人口が434人増加すると見込まれる。

②. まちなか居住推進事業（富山市）

事業実施期間	平成17年度～ 【実施中】
事業概要	快適なまちなかにふさわしい多様な住まいの建設及び供給する市民・事業者に対して支援する事業である。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（富山市中心市街地地区（第4期））（国土交通省）（令和4年度～令和7年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】739人 増（75件/年の支援） 【最新値】234人 増 令和5年度の住宅取得支援（共同住宅を除く）の件数は、119件と、基準としている平成28年度から令和2年度実績の年平均である75件を44件上回った。
事業の今後について	引き続き、まちなか居住を希望する方に住宅の取得支援を行い、まちなか居住を推進する。

●目標達成の見通し及び今後の対策

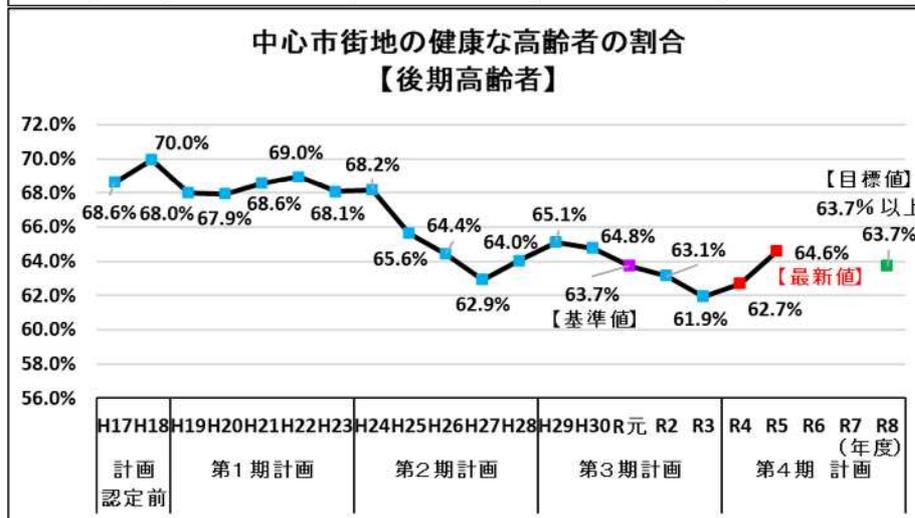
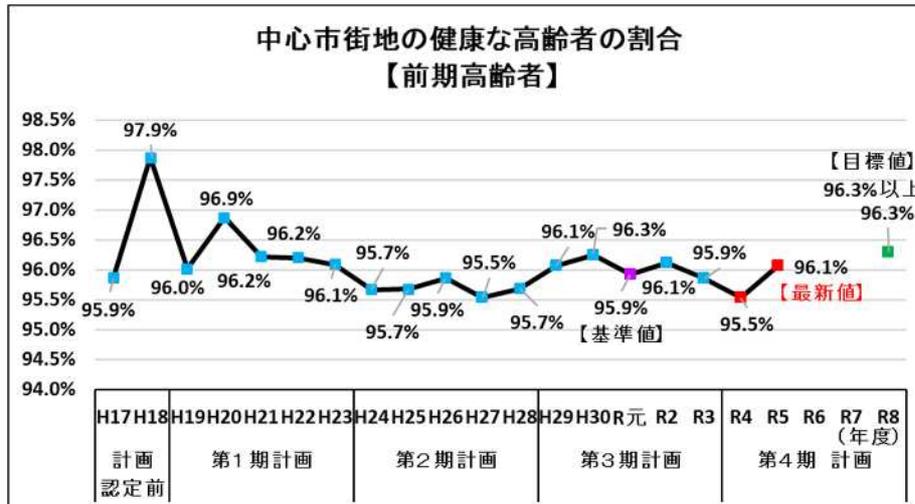
「まちなか居住推進事業」による支援が、目標の達成に寄与している。

今後も「中央通りD北地区第一種市街地再開発事業」や民間事業による分譲マンションの建設が予定されていることから、中心市街地の居住人口の社会増加が見込まれ、引き続き、まちなか居住を支援することで更なる中心市街地の居住人口の社会増加を目指すことで、目標を達成可能と見込んでいる。

(3) ②「中心市街地の健康な高齢者の割合」

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 94～P. 95 参照

●調査結果と分析



年	(単位)
R元	前期高齢者 95.9% 後期高齢者 63.7% (基準年度)
R4	前期高齢者 95.5% 後期高齢者 62.7%
R5	前期高齢者 96.1% 後期高齢者 64.6%
R6	
R7	
R8	前期高齢者 96.3%以上 後期高齢者 63.7%以上 (目標値)

※調査方法：介護保険の要介護・要支援データ

※調査月：各年6月末時点

※調査主体：富山市

※調査対象：中心市街地に居住している65歳以上の高齢者

〈分析内容〉

中心市街地の健康な高齢者の割合は、前期高齢者においては96.1%と、基準年度である令和元年度の基準値と比べ0.2ポイント上回り、目標値と比べ0.2ポイント下回っている。また、後期高齢者においては、64.6%となり、基準年度である令和元年度の基準値及び目標値と比べ0.9ポイント上回っている。

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが季節性インフルエンザと同様の5類に移行したことで外出機会が増えたことや中心市街地活性化基本計画に位置付けている事業を引き続き行い、高齢者の身体活動時間や人との交流機会の増加を引き起こしたことが要因として考えられる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 地域包括ケア拠点施設運営事業（富山市）

事業実施期間	平成29年度～令和8年度【実施中】
事業概要	乳幼児から高齢者、障害者やその家族が、いつまでも地域で安心して暮らせる健康まちづくりを推進するための行政サービスを一元的・包括的に提供する「まちなか総合ケアセンター」の運営や、総曲輪レガートスクエア内の官民施設が協働事業に取り組み、賑わいや世代間交流・地域間交流の創出を図る事業である。
国の支援措置名及び支援期間	子ども・子育て支援交付金（内閣府）（令和4年度～令和8年度） 母子保健衛生費補助金（厚生労働省）（令和4年度～令和8年度） 地域支援事業交付金（介護保険事業）（厚生労働省）（令和4年度） 生活困窮者就労準備支援事業費等補助金（厚生労働省）（令和4年度） 重層的支援体制整備事業交付金（厚生労働省）（令和4年度） 地域生活支援事業補助金（厚生労働省）（令和4年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【基準年度】診療件数 1,903 件、カレッジ参加人数 4,211 人 【最新年度】診療件数 2,110 件、カレッジ参加人数 2,835 人 令和5年度の診療件数は 2,110 件と基準年度である令和元年度の 1,903 件から 207 件増加した。また、令和5年度のカレッジ参加人数は 2,835 人と基準年度である令和元年度の 4,211 人から 1,376 人減少した。 カレッジ参加人数については、令和4年度と比べると 311 人増加しており、回復傾向であると考えられる。
事業の今後について	引き続き、まちなか総合ケアセンターにおける様々な取り組みを通して、地域住民が安心して健やかに生活できる健康まちづくりを推進し、中心市街地の健康な高齢者の割合の向上を目指す。

②. 角川介護予防センター管理運営事業（富山市）

事業実施期間	平成23年度～ 【実施中】
事業概要	超高齢化社会により高齢者人口が増加すると見込まれる中、多機能温泉プールによる水中運動やパワーリハビリテーション等の陸上運動を組み合わせた介護予防プログラムの提供などを行う介護予防の拠点施設である「角川介護予防センター」を運営し、元気な高齢者を増やすため積極的な活用を推進する事業である。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	【基準年度】延べ利用者数 87,336 人 【最新年度】延べ利用者数 77,284 人 令和5年度の角川介護予防センターの延べ利用者数は 77,284 人と基準年度である令和元年度の 87,336 人から 10,052 人減少

	<p>した。</p> <p>令和4年度と比べると 2,580 人減少しており、令和6年能登半島地震により外出意欲が落ちたことやプールが使用できなかった期間があったことが要因と考えられる。</p>
事業の今後について	<p>引き続き、角川介護予防センターにおける様々な取り組みを周知し利用を促進することで、高齢者の生活の質の向上と健康寿命の延伸を図り、中心市街地の健康な高齢者の割合の向上を目指す。</p>

③. 歩くライフスタイル推進事業（富山市）

事業実施期間	令和2年度～ 【実施中】
事業概要	<p>「とほ活」(=富山で歩く生活) をキャッチコピーに、過度に車に依存したライフスタイルから、公共交通を利用した中心市街地への来街や健康づくりとして歩くなど、「歩くライフスタイル」への転換を促す。また、「歩きたくなるまちづくり」の一環として、まちを楽しみながらより長く快適に歩けるよう官民が連携してベンチを整備する事業である。</p>
国の支援措置名及び支援期間	<p>デジタル田園都市国家構想交付金(内閣府)(令和5年度～令和8年度)</p> <p>地方創生推進交付金(内閣府)(令和4年度)</p> <p>都市構造再編集中支援事業(富山市中心市街地地区(第4期))(国土交通省)(令和4年度～令和5年度)</p>
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>【基準年度】60歳以上のとほ活アプリユーザーの月当たり平均歩数 5,810歩</p> <p>【最新年度】60歳以上のとほ活アプリユーザーの月当たり平均歩数 5,945歩</p> <p>令和5年度の60歳以上のとほ活アプリユーザーの月当たり平均歩数は5,945歩と令和4年度の実績に比べ137歩減少したが、基準年度である令和元年度の5,810歩から135歩増加している。</p> <p>これは、夏の熱中症警戒アラートや令和6年能登半島地震による歩く機会の減少もあったが、賞品応募やイベント等により、新規利用者を獲得したことや歩くことの意識の醸成が図られたことの結果、引き続き基準年度を上回る実績となったと考えられる。また、令和5年度のとほ活ベンチ事業によりベンチを29基整備しており、市民がより長く、快適に歩ける空間づくりの取り組みにより、今後の平均歩数の増加が見込まれる。</p>
事業の今後について	<p>引き続き、とほ活アプリを通じて歩くことの意識の醸成を図り、中心市街地の健康な高齢者の割合の向上を目指す。</p>

④. シニアライフ講座運営事業（富山市）

事業実施期間	平成8年度～ 【実施中】
--------	--------------

事業概要	60 歳以上の市民を対象に、健康と生きがいを高めるため、公民館等を会場に、趣味活動・創造活動・健康活動の各種講座を開催する事業である。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	【基準年度】シニアライフ講座参加人数 341 人 【最新年度】シニアライフ講座参加人数 213 人 令和5年度のシニアライフ講座の参加人数は213人と基準年度である令和元年度の341人から128人減少した。 令和4年度と比べると、中心市街地から会場の変更があった講座があり10人の減少となった。
事業の今後について	高齢者のニーズに合わせた魅力ある講座を開設し、利用の促進を図り、引き続きシニアライフ講座を行っていくことで、高齢者の健康と生きがいを高め、中心市街地の健康な高齢者の割合の向上を目指す。

⑤. おでかけ定期券事業【再掲】(富山市)

事業実施期間	平成16年度～令和8年度【実施中】
事業概要	市内在住の65歳以上の高齢者を対象に、バス・鉄道・路面電車を利用して中心市街地へ出かける際に、1乗車100円で利用できるICカードを発行する事業。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業(総務省)(令和4年度～令和8年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	【基準年度】延べ利用者数 1,009,470人 【最新年度】延べ利用者数 747,665人 令和5年度のおでかけ定期利用者数は、747,665人と基準年度である令和元年度の実績1,009,470人から261,805人減少した。 令和4年度実績と比べると1,019人減となり、これは、新型コロナウイルスの影響により、公共交通から移動手段を変更された方を呼び戻すことができなかったことが要因と考えられる。
事業の今後について	おでかけ定期券の広報活動や、おでかけ定期券の利用による優待サービスの周知を工夫し、申し込みや利用の促進を図ることで、更なる高齢者の外出機会や歩く機会を増やし、中心市街地の健康な高齢者の割合の向上を目指す。

●目標達成の見通し及び今後の対策

中心市街地の健康な高齢者の割合の増加に向けた各事業については、夏の熱中症警戒アラートや令和6年能登半島地震の影響もあり、一部の事業で数値が減少したが、目標指標については改善している。

今後については周知方法等の改善も行いながら、引き続き高齢者の健康づくりを支える「角川介護予防センター」における温泉水の効用を活用した水中運動やパワーリハビリテーションなど複合的な介護予防プログラムの提供や、「まちなか総合ケアセンター」における在宅医療の推進をはじめとした地域包括ケア拠点施設としての総合的な支援に加え、シニアライフ講座運営事業や歩くライフスタイル推進事業、おでかけ定期券事業などを実施し、高齢者の外出機会を増やし、歩く機会を増やす施策にも取り組むことで、中心市街地の健康な高齢者の割合が増え、目標を達成可能と見込んでいる。